

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16680

研究課題名(和文)古代ギリシアの弁証術に関する探究を通じた倫理学方法論の確立

研究課題名(英文)The methodology in ethics with regard to ancient Greek dialectics

## 研究代表者

稲村 一隆(Inamura, Kazutaka)

早稲田大学・政治経済学術院・准教授

研究者番号：40726965

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はアリストテレスの倫理学の方法論を弁証術の側面から検討した。古代ギリシアで弁証術とは二人の人間が対話を交わす作法のことであり、アリストテレスは弁証術を、人々の考え方を批判的に検証し学問の基礎を打ち立てる手法として理解した。とはいえ、弁証術には多様な形態と利用方法があるので、本研究はその不明な点を分析し、さらに知識の基盤としてどれほど有効な道具なのかを検証した。成果として、アリストテレスはプラトンの分割法に影響を受けていること、その分割法の発想は生物の分類だけでなく、政治体制の分類にも使われていること、弁証術の基盤には視点の転換という意味での互惠性が使われていることなどが明らかになった。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は社会規範を探究する方法論の発展に寄与することである。事実を調査する科学的方法とは異なり、社会規範や価値観は人々の心の中にあり、感情的な要素も入っているので、対話を交わすのは難しい。古代ギリシアのアリストテレスはこの問題に弁証術という対話の作法を通して取り組んだ。本研究では、その利用方法を分析することで、例えば幸福や福利といった価値観は、人々の一般的な見解を題材として受け取りながら、その内容を明確化したり、一貫性を問題にしたり、概念を分析したりして、探究されることを明らかにした。ただしこうした探究の前提には視点の転換や論理性などが要求されていることも明らかにした。

研究成果の概要(英文)：I have examined Aristotle's dialectical methodology in his ethical and political philosophy. In the existing literature, it is well known that Aristotle uses dialectics as a method for criticizing common beliefs and establishing the first principles of studies. It is, however, unclear what types of dialectics and how Aristotle uses for formulating ethical concepts and offer arguments in his Nicomachean and Eudemian Ethics and Politics. It is also doubted how Aristotle's dialectics are reliable for acquiring knowledge. I have clarified that Plato's dialectical method of division is very influential on Aristotle's method of formulating the notion of human well-being, that the method of division is used in his scientific classification of the political constitutions as well as in his biological taxonomy and that the role-exchange reciprocity is a basis for dialectical conversation.

研究分野：政治哲学、倫理学、正義論

キーワード：アリストテレス 方法論 弁証術 定義 互惠性 分類 社会規範 価値

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の学術的背景は、古代哲学の分野でも規範理論の分野でも方法論に対する関心が高まっていることにあるが、とりわけ弁証術(問答術、*dialektikē*)を方法論として用いる際の妥当性が問題となっていることにある。アリストテレスの弁証術に関する先行研究で有名なのは T. Irwin, *Aristotle's First Principles*, Oxford UP, 1988 だが、この著作では人々の考えから議論を出発させる弁証術では認識論的に妥当な主張を行うことができないと弁証術が批判的に捉えられ、むしろ形而上学の必要性が擁護されている。また近年の研究では D. Scott, *Levels of Argument*, Oxford UP, 2015 がアリストテレスの『ニコマコス倫理学』の方法論とプラトンの『国家』の議論の方法を比較しているが、前者の方法論は後者の中で人々に分かりやすい「手短な道」として表現された議論に影響を受けていると捉えられ、弁証術の重要性は認識されていない。そもそもアリストテレスの方法論は弁証術に基づいていないのではないかという議論も近年、出てきており、むしろ論証の観点から方法論を捉えようとする研究が盛んである(例えば、J. Karbowski, *Aristotle's Method in Ethics*, Cambridge UP, 2019)。そこで本研究は弁証術の特徴と意義をあらためて検討し、人々が価値について議論する方法論として弁証術がどれほど妥当なのかを検証することにした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、古代ギリシアの弁証術を通して、人々が善や正義などの価値について客観的に議論する倫理学の方法を確立することである。弁証術は元来、二人の人間が問い手と答え手に分かれて対話を交わす議論の作法である。本研究では、人々の考えを批判的に検討し各々の学問の根本原理を解明するのに弁証術を利用したアリストテレスの方法論に焦点を当てる。これにより、価値を概念的に定式化する方法を考察し、政治的討論や司法上の裁判などで価値について議論するための思考のあり方を解明する。近年の研究では古代哲学だけでなく現代の認識論や倫理学方法論においても、弁証術に対して様々な批判が寄せられており、そこで本研究は倫理学の方法論として弁証術がどれほど有効な道具なのかを検証することを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究の方法は古典的な資料の解析である。資料としてはアリストテレスの『ニコマコス倫理学』『エウデモス倫理学』『政治学』『分析論後書』『トピカ』などの古典ギリシア語のテキストである。とりわけ『分析論後書』や『トピカ』などの論理的な著作の議論が、どのように倫理的な著作の議論に活用されているのかを分析することが研究方法の主となる。また哲学史の知識を活用して、プラトンなど当時の哲学者や後世の哲学者の議論と比較することでアリストテレス前後の影響関係を調査し思想史的に特徴づける。

## 4. 研究成果

まず本研究はアリストテレスの若い頃の作品だとされる『エウデモス倫理学』の方法論に着目した。この著作の第1巻第6章では、倫理学の議論の出発点として、「真実ではあるが曖昧な見解」を取り上げて、「人々に認識しやすいこと」をつねに取り上げながら、「真実であるとともに明晰な見解」へと仕上げていく必要性が述べられている。本研究はこの方法論が「幸福」という曖昧な概念を明確化するのに『エウデモス倫理学』の中でどのように用いられているのかを検討した。さらに本研究はアリストテレスの晩年の作品とされる『ニコマコス倫理学』の方法論との違いも検討した。『ニコマコス倫理学』においても、「人々に認識しやすいこと」を取り上げながら、抽象的な概念を明晰化していく必要性が述べられるが、重要なことに第1巻の方法論のテク

ストでは「真実ではあるが曖昧な見解」から出発する必要性については言及されていない。こうした事実をもとに、本研究は、『エウデモス倫理学』の方法論の方がより詳しくて厳密なものであり、『ニコマコス倫理学』では一般向けの読者を想定しているために簡略化された結論付けた。この成果は国内外の様々な学会や研究会で口頭発表を行い、すでに Anthony Kenny, *The Aristotelian Ethics*, 2<sup>nd</sup> ed. Oxford UP, 2016 の中でも言及されるなど、海外の著名な研究者にインパクトを与えている。また英語論文を執筆して国際的に評価の高い学術誌に投稿中で、査読の結果を待っている段階である。

次にアリストテレスの方法論に対するプラトンの分割法の影響を探究した。というのも、アリストテレスの『エウデモス倫理学』の方法論や『政治学』の六政体論はプラトン後期の著作に影響を受けているからである。本研究では『分析論後書』や『動物部分論』での分割法批判を検討した結果、分類の手法として分割法は批判されているが、概念の明晰化の手法としては有用であり、実際、倫理学方法論として利用されていることを確認した。さらにプラトン『ポリティコス』の六政体論をアリストテレスはどのように応用しているのかを分析した。その結果、六政体論自体はプラトンの影響を受けており、また最も中心的な要素に着目して全体を理解するという方法の点でもプラトンに影響を受けているが、目標とされている対象だけを捉えようとするプラトンの分割法それ自体に関してはアリストテレスは利用しておらず、むしろ多様な現実を満遍なく扱い整理するために、要素への分解から全体を理解しようとする手法を活用していることを明らかにした。つまり政体分類には、国家を要素に分解し、要素の違いから国家の種類の違いを説明し分類していることが明らかになった。こうした研究成果についても国内外の学会や研究会で口頭発表を行い、論文として “Scientific Classification and Essentialism in the Aristotelian Typology of Constitutions” を *History of Political Thought*, vol. 40 (2), 2019 に掲載した。

また本研究は古代ギリシアの弁証術が近代以降にどのように影響を与えたのかを明らかにするために J. S. ミルの方法論を調査した。特に着目したのは『自由論』第 2 章と『論理学体系』第 4 巻第 4 章の関係である。ミルは言論の自由を擁護する『自由論』第 2 章の中で反対論の提示されない社会ではたとえ多数派の考えが正しかったとしても一方的に信じるだけのドグマへと変質していくことを述べているが、このメカニズムを『論理学体系』の中で詳細に分析しており、概念の定義の仕方と反対論の役割を擁護するために古代ギリシアの弁証術を利用していることが明らかになった。そこで本研究はミルの理解するソクラテス的知識観や方法論が自由主義社会の基礎であり、思想と討論の自由を擁護する基盤として弁証術の精神が必要であると結論づけた。さらにミルは『功利主義論』などで「正義」や「自然」の概念を分析する際に弁証術を用いており、本研究はこうした議論の分析に対してもインパクトが期待できる。この点に関する研究成果も国内外の様々な学会や研究会で報告し、“J. S. Mill on Liberty, Socratic Dialectic, and the Logic behind Political Discourse” という英語論文を *Journal of the History of Ideas*, vol. 81 (2), 2020 に掲載した。

本研究は方法論の応用としてケンブリッジ学派の政治思想史方法論も弁証術の観点から検証した。というのもケンブリッジ学派のクエンティン・スキナーの方法論は古代ギリシアの弁証術に影響を受けたガダマーの解釈学やドナルド・デイヴィドソンの言語哲学に影響を受けているからである。本研究は特にスキナーの「思想史の影響関係」の概念に着目し、それが因果関係と混同されているため、思想解釈の方法を把握するためにはあまり有効ではなく、むしろ弁証術のよ

うに対話の一形態として過去の思想に接近するやり方を検証した。この研究成果は2017年の11月にチェコのプラハで行われた共和主義の政治思想学会で口頭発表を行った。さらに思想史の方法論に関する調査をもとに論文を岩波書店の『思想』1143号、2019年に掲載した。

さらに本研究は弁証術に対する認識論上の問題点を検討するために、現代の認識論や倫理学方法論の議論を参照した。主な批判点は、人々の一般的な考えから議論を出発させる限り、弁証術では偏見を除去することはできないこと、概念は家族的類似の構造を持っているために、必要十分条件を提示する仕方では概念を定義できないことである。本研究は、この問題に対応するために、アリストテレスの方法論に影響を受けたジョン・ロールズの反照的均衡の議論を参照しながら、弁証術は完全なものではないが、様々な考え方の一貫性を検証したり、概ね間違いのない経験的知識から議論を展開させたりすることで、弁証術を利用することは可能だと論じた。この点に関する研究成果も学会で口頭発表し、一部は*Aristotle: 2400 Philosophical Traditions*, The University of Bucharest Publishing Press, forthcomingの中に掲載されることになった。定義に関しては海外の学術誌で査読中である。

また本研究は弁証術の基盤として役割や視点の交換という意味での互恵性の概念に着目した。アリストテレスの著作の中には認識上の議論と倫理的な人間関係の議論でこうした互恵性を統一的に議論している箇所は存在しないが、『形而上学』や『政治学』のいくつかの箇所に着目してみると社会的な役割の交代が人間の認識を拡張する上で重要視されていることが散見される。この点は、アダム・スミスの共感概念だけでなく、現代の倫理学、政治哲学、経済学の中でも非常に重要視されている点のため、アリストテレスの著作の中で、どのように互恵性概念が使われているか、また平等な関係だけでなく不平等な関係で互恵性概念はどのように使われているかを分析した。この点の研究成果も様々な学会や研究会で口頭発表を行い、英語論文を執筆し、国際的な学術誌への投稿を準備中である。

以上、本研究は国際的な学術誌への論文の掲載、国内外の学会や研究会での口頭発表、一般向けの図書での執筆などを通して研究成果を社会に提示してきた。国際的な学術誌での論文掲載は非常に難しく、まだ査読結果が出ていないものもあるので、この点については科研費の研究期間終了後も結果が出るまで粘り強く取り組んでいきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Kazutaka Inamura	4. 巻 40
2. 論文標題 Scientific Classification and Essentialism in the Aristotelian Typology of Constitutions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 History of Political Thought	6. 最初と最後の頁 196-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazutaka Inamura	4. 巻 81
2. 論文標題 J. S. Mill on Liberty, Socratic Dialectic and the Logic behind Political Discourse	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the History of Ideas	6. 最初と最後の頁 257-277
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1353/jhi.2020.0016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲村一隆	4. 巻 1143
2. 論文標題 テキストの分析と影響関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 82-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 10件）

1. 発表者名 稲村一隆
2. 発表標題 分類の方法論と本質主義：アリストテレス『政治学』での応用について
3. 学会等名 日本哲学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazutaka Inamura
2. 発表標題 The Role-Exchange Reciprocity as a Basis for Republicanism
3. 学会等名 27th Political Philosophy Workshop at Sun Yat-sen University, Zhuhai, China (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazutaka Inamura
2. 発表標題 Scientific Classification and Essentialism in the Aristotelian Typology of Constitutions
3. 学会等名 17th Global Justice Lecture, Sun Yat-sen University, Zhuhai, China (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazutaka Inamura
2. 発表標題 Aristotle on Reciprocity and Hierarchy
3. 学会等名 Ancient Worlds/Global Antiquity series at Yale-NYU College, Singapore (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲村一隆
2. 発表標題 J.S. ミルにおけるソクラテス弁証術の受容と言論の自由 『論理学体系』第四巻第四章と『自由論』第二章
3. 学会等名 政治思想学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazutaka Inamura
2. 発表標題 Scientific Classification and Essentialism in the Aristotelian Typology of Constitutions
3. 学会等名 The joint session of the Aristotelian Society and the Mind Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazutaka Inamura
2. 発表標題 Reciprocity in Aristotle's Political Philosophy
3. 学会等名 The American Philosophical Association, the Central Division (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazutaka Inamura
2. 発表標題 A hermeneutic method for developing republican political theory
3. 学会等名 Republicanism in the history of political philosophy and today (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazutaka Inamura
2. 発表標題 Carnapian Explication in the Context of Definition Theory
3. 学会等名 The 5th annual conference of the Society for the Study of the History of Analytical Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kazutaka Inamura
2. 発表標題 A Genus-differentia Definition and Natural Kinds
3. 学会等名 The 2016 joint session of the Aristotelian Society and the Mind Association (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kazutaka Inamura
2. 発表標題 The Eleatic Stranger's Method in Aristotle's Eudemian Ethics
3. 学会等名 The International Conference 2400 Aristotle (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kazutaka Inamura
2. 発表標題 J. S. Mill on Liberty, Dialectics, and the Logic behind Political Discourse
3. 学会等名 Oxford History of Political Thought Seminar (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 John Morrow and Colin Davis	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 -
3. 書名 Reading Texts on Sovereignty	



1. 著者名 西尾宇広編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 260
3. 書名 生命の経済	

1. 著者名 CRISTIAN IFTODE and SAVU TOTU	4. 発行年 2020年
2. 出版社 University of Bucharest Publishing Press	5. 総ページ数 -
3. 書名 ARISTOTLE: 2400 YEARS OF PHILOSOPHICAL TRADITION	

1. 著者名 伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 世界哲学史 1	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Waseda.Academia.Edu  <a href="https://waseda.academia.edu/KazutakaInamura">https://waseda.academia.edu/KazutakaInamura</a>          Researchmap  <a href="https://researchmap.jp/kina/">https://researchmap.jp/kina/</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----